

DAICHI NAKAMURA Violin Charity Concert

2012.1.5.

Piano : JUNICHI NAKAGAWA

東日本大震災復興支援

中村太地 ヴァイオリン チャリティーコンサート

2012年1月5日(木) 18:30開演

ウェルとばた 中ホール

ピアノ伴奏 / 中川淳一

チャリティー先 : NPO法人 & 国際NGOロシナンテス

◆.....◆ Program

- ◆ ベートーヴェン :
ヴァイオリンとピアノのためのソナタ第1番 op.12-1
- ◆ シューマン :
ヴァイオリンとピアノのためのソナタ第1番 op.105
- ◆ サラサーテ :
カルメン幻想曲 他



*当日募金箱を設置させていただきます。寄付金はNPO法人 ロシナンテスを通じて東日本大震災の復興に役立てていただきます。

中村 太地 プロフィール



福岡県北九州市生まれ。3歳よりヴァイオリンを始める。小倉高校出身。

これまでに第55、58回全日本学生音楽コンクール福岡大会小学校の部第1位、第5回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール入賞（最年少ファイナリスト）、第3回名古屋国際音楽コンクール第1位（最年少）、第7回大阪国際コンクール室内楽部門第2位（デュオ）、フィンランド・クフモ室内楽音楽祭2005にてディプロム、の各賞受賞。2007年、2008年には室内楽コンサート「楽興の時」にてNHK交響楽団第1コンサートマスター 篠崎史紀氏と共演する。2009年よりウィーンに留学。翌年の2010年には、ケルトナーシュパールカッセ・スカラシップコンクールにて入賞、ガラコンサートにてクラゲンフルト管弦楽団とチャイコフスキー ヴァイオリン協奏曲を共演。2011年には、オーストリア・アレグロヴィーヴォ音楽祭にてディプロム受賞。ガラコンサートにてサラサーテ・カルメン幻想曲を演奏し、その模様はORFラジオ、テレビによって放送される。同年、ブルガリアで行われたNedjalka

Simeonova国際コンクール2011にて優勝。審査員を務めたソフィアフィルハーモニー交響楽団常任指揮者M.I.スタンコフ氏にその才能を認められ同12月に同交響楽団とベートーヴェン ヴァイオリン協奏曲を共演。

9歳での共演を皮切りこれまでに九州交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、クラゲンフルト管弦楽団、ソフィアフィルハーモニー交響楽団と共演。

これまでに篠崎永育氏、西和田ゆう女史、アナスタシア・チェボタリョワ女史、堀正文氏、現在ウィーン国立音楽大学にてアントン・ソロコフ氏に師事。

中川 淳一 プロフィール



北九州市出身。桐朋女子高等学校音楽科（共学）を経て、桐朋学園大学音楽学部に入學。同大学を卒業後渡独し、ドイツ国立デトモルト音楽大学に入學。同大学を首席で卒業。留学中より、ドイツ各地やポーランドで演奏活動を始め、1999年に帰国後は、九州各地や広島、四国、東京などでも、ソロだけでなく室内楽の分野でも活動している。これまでに、

[1985年] 第39回全日本学生音楽コンクール福岡大会第1位。

[1990年] 第9回飯塚新人音楽コンクール1位。

[1993年] 第9回日本ピアノ教育連盟主催ピアノオーディションにて奨励賞受賞、受賞者演奏会出演。

[1999年] 第44回西日本出身新人紹介演奏会にて西日本新聞社賞受賞。

[2000年] 日演連推薦新人演奏会オーディションに合格、九州交響楽団と共演。

[2001年] 九州サマーフェスティバルにて九州交響楽団と共演。

[2002年] 第20回北九州芸術祭にて伴奏賞受賞。

他にも、福岡室内合奏団や、ポーランド国立クラクフ管弦楽団、またNHK交響楽団コンサートマスター篠崎史紀氏やウィーン国立音大教授R.デーリング氏等、国内外の演奏家との共演も多い。

また福岡音楽学院、ぎじゅつやさんのピアノ店、エリザベト音楽大学、西日本短期大学にて後進の指導にも積極的に取り組んでいる。

これまでに伊藤寧子、徳丸聰子、ネリーネ・バレット、田中美江の各氏に師事。

また、北九州市八幡西区木屋瀬にあるホールにて、モーツァルトのピアノソナタの全曲演奏に挑戦中。またプロデューサーとして、演奏会の企画運営にも携わっている。

「NPO法人ロシナンテス」とは



NPO法人ロシナンテス

理事長

川原 尚行

「NPO法人ロシナンテス」は、アフリカのスーダン共和国において医療を中心に活動を行っている特定非営利活動法人（NPO）です。

理事長を務める川原尚行が、在スーダン日本大使館に医務官として勤めていた時、スーダンの医療事情の深刻さを見るにつれ、医師として何かできないかと思うようになり、2005年1月に外務省を辞職。スーダンでも医師免許を取得し同年4月より医療活動を始めたのがきっかけでした。その活動は、医療・母子保健、水・衛生、学校・教育スポーツ、交流と、様々な広がりを見せています。

また、東日本大震災発生当日、東京に居合わせた川原とスタッフが直後より宮城県名取市に入り活動を行いました。避難所での巡回診療から、ラジオ体操などの健康管理、子ども達と共に各種イベントを企画するなど医療支援にとどまらない活動を行いました。また、全国から集まったボランティアによる被災住宅のがれき撤去、仮設住宅での『寺子屋』開設といった復興支援にも関わっています。

2011年7月9日に南スーダンが『南スーダン共和国』として独立しましたが、それに先立つ7月2日、南北スーダンの子ども達22名を宮城県名取市に招待しました。東日本大震災で甚大な被害を受けた関上（ゆりあげ）地区に入り、関上の子ども達や地域の方々と運動会を開き交流を深めました。内戦や震災を経験した子ども達が互いの文化や習慣を知ることで、将来国際的な視野を持ち、地域の復興に活躍できる人材を育成したいと考えています。

私たちNPO法人ロシナンテスの名前は、小説「ドンキホーテ」に出てくるドンキホーテの乗る痩せ馬ロシナンテから来ています。「私たち一人一人は痩せ馬ロシナンテのように無力かもしれない、しかし、（ロシナンテ）が集まり（ロシナンテス）になれば、きっと何事かできるはずだ」と考え、「ロシナンテス」と名付けました。



避難所で診療（内藤順司氏 撮影）



がれき撤去作業も（ロシナンテス 撮影）



訪問診療する川原（内藤順司氏 撮影）